令和４年度 第４回「稼ぐ力の強化に向けた産業 DX の加速」に関する万国津梁会議

日　　時 ： 令和５年１月 30 日（月）14:00～16:00
場　　所 ： 県庁６階第１特別会議室
担 当 課 ： 沖縄県 商工労働部 情報産業振興課

議事録

■次第

1　開会
2　提言書案の説明及び意見交換
3　閉会

■配布資料

・配席図
・委員名簿
・資料「提言書案」
・第３回議事録

1. 開会

○ 事務局（下地）：

これより第 4 回「稼ぐ力の強化に向けた産業 DX の加速」に関する万国津梁会議を開催します。本日の司会を務めさせて頂きます、情報産業振興課の下地です。宜しくお願いいたします。

まず、最初にピンクのフラットファイルに綴じられています配布資料を確認いたします。まず、

- 「本日の次第」が最初にございます。それから、
- 「配席図」、そして
- 「委員名簿」、それから会議資料として
- 「提言書案」、最後に
- 「第 3 回産業 DX 会議議事録」となっております。

間違いございませんでしょうか。なお、お配りしております前回の議事録につきましてはご覧いただいたうえで、修正すべき点などございましたら事務局までお知らせ頂けたらと思います。

また、本日は、本年度の会議の最終回になりますので、委員の皆様には「稼ぐ力の強化に向けた産業 DX の加速」のための「提言書案」について本日は意見交換をしていただくことになっております。よろしくお願い致します。

それでは、早速ではございますが、議事進行を委員長にお願いしたいと思います。稲垣委員長、よろしくお願いいたします。

○ 稲垣委員長：

畏まりました。皆さん、こんにちは。寒い日が続きますけれども、お集まりいただいてありがとうございます。また、東京からおいでの方、事務局もご苦労様でございました。それでは早速ですが、次第に沿って会議を進めたいと思います。

2. 提言書案の説明

○ 事務局（下地）：

これまで 3 回の会議を通じまして、委員のみなさまから活発なご意見をいただきました。いただいたご意見を「提言書」という形でとりまとめたいと考えております。本日提言書の案が用意されておりますので、この案を元に皆さま方からご意見をいただき、必要な修正を施して、提言の最終版をとりまとめていきたいと思っています。最初

に、ファシリテータから提言書案について説明していただきます。よろしくお願いいたします。

○　ファシリテータ（新谷）：

それでは私の方からご説明させていただきたいと思います。手元に提言書案の原文が配置されておりますので、そちらをご覧いただきたいと思いますが、私の方で画面を使って、どの部分にどういうことが書かれているか、概要を説明したいと思います。

まず、提言書のタイトルですが、「稼ぐ力の強化に向けた産業 DX の加速」に関する万国津梁会議、それに関する提言書としてございます。

提言書の構成ですが、最初に委員の名簿がございます。続いて目次でございます。その後に本文が続きますが、目次を見てお分かりの通り、この本文自体が 5 つの節でできておりまして、最初の節が「はじめに」になっています。「はじめに」にはこの提言書の背景になる事柄、すなわち今年度策定されました「新沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」、これを受けまして「稼ぐ力の強化に向けた産業 DX の加速」、まさにこの会議での議論があることを明記しております。

そしてこの会議の主題である産業 DX ですね、その産業 DX とは何か、これを簡潔に説明したうえで、県によるこれまでの取組みに触れるとともに、産業 DX をさらに加速するための取組みの必要性に言及しております。そして「はじめに」の最後のところに「本会議における産業 DX の加速に向けた課題を整理し、それらを乗り越えていくために必要な取組みを提言する」と。これが本提言書の主題を一言で述べている部分です。

続く 2 つ目の節ですけども、2 つ目の節は「産業 DX の加速に向けた課題」というタイトルをつけております。課題を整理するにあたりまして、第 1 回の会議で取り上げました調査結果を、グラフを用いて紹介しております。今日、私の説明ではデータの紹介は省略させていただきますけれども、これらグラフを使って紹介させていただいております。そして、調査結果の要約として 3 つの課題があるということを指摘しております。課題の 1 が「産業化における DX の理解不足」、課題の 2 が「DX 推進ノウハウの不足」、また課題の 3 が「人材不足」。それぞれを課題 1、2、3 として明記しております。年末に皆さんにお配りした原稿では。この 3 つの課題だけを明記していた状況であったのですが、本日お配りしている提言書の案では、実際の会議での議論の流れと同じくして 4 つ目の論点として、その他検討すべき取組みを（4）として追記してございます。また委員の皆様からご意見をいただきまして、この第 2 節の最後に「これらの課題等の克服に向けて早急に取り組まなければ数年後には沖縄県内の産業が時代の流れから取り残されてしまうことを強く危惧するものである」と、いう一文を加えております。このように第 2 節ではデータに基づいて沖縄県の産業 DX の課題を明らかにしたうえで、会議で議論すべき論点を 4 つに整理して、これらに早急に取り組まなければならないという危機感を示した、というふうな感じになっています。

さて続く3節ですけども、こちらタイトルは「課題解決に向けた検討」としております。過去 3 回の会議を通じまして、委員の皆様から頂戴しましたご意見を先ほど申し上げた4つの論点に沿って記載しています。そういう節になります。1つ目の論点ですけども、これが「産業界におけるDXの理解不足」、でございます。そしてその小項目として「経営者の意識改革」、それから「組織的な取り組み」、この2つを取り上げてございます。また2つ目の論点として「DX推進ノウハウの不足」。こちらに関しては小項目として3つ。1つ目が「事例の発信」、2つ目として「伴走者によるサポート」、さらに3つ目として「DXの最初の一歩」、以上3つを取り上げました。

さらに3つ目の論点として「DX推進人材の不足」を取り上げております。小項目として1つ目が「企業内人材の育成」、2つ目として「伴走者の育成」、3つ目として「認証制度の検討」、さらに 4 つ目として「外部の即戦力の活用」、この項目の最後で 5 つ目ですが「中長期での人材育成」を取り上げています。最後の4つ目の論点です。「その他、検討すべき取組」としまして、1つ目が「データ利活用」、2つ目が「行政DX」、3つ目が「官民連携体制」、この3つの小項目を取り上げております。

おそらく委員の皆様はここの部分に関してご覧頂いた際に、ご自身の発言部分が含まれていることにお気づきになったかと思うのですが、これは論点ごとの検討結果のまとめにあたりましては、会議での委員の皆様のご意見をなるべく多く取り込むように努めたところであります。

続く第4節に、こちらが最も重要な部分ですけども、本提言書の提言を明記した部分になります。こちらについては全文を読み上げたいと思います。

本会議では、前項で述べた各種の検討を経て、以下の提言内容をとりまとめた。

(1) 県内でのDXの理解向上

① 経営への危機意識を含めた経営者への啓発をはじめ、社員も含めた DX の加速に向けたマインドセットに結び付けるための啓発活動の拡充

② 自社の DX に会社全体で取り組むため、その設計図である計画書を作成し、社員をリーダーとしたチームによってDXを牽引する体制構築の促進

(2) DXへの着手支援

① 動画などを用いながら、様々な産業、業種ごとの事例や、ITに明るい人材を中心とした企業内の DX 推進体制構築の工夫等を紹介する、産業 DX 事例集等の整備

② DX 推進に向けた経営課題の洗い出しも含めて、経営者のアドバイザーとなる伴走者（コンサル等）の育成と活用の促進

③　中小企業を中心とした、将来の本格的な DX につながる基本的な業務系サービス導入や SaaS 利用等、スモールスタートの支援促進

(3) DX を推進する人材の育成

①　企業内人材の確保として、経営者及び社員（DX 企画・戦略担当）を対象とした育成プログラムの強化促進とリスキリングプログラムの構築・実施

②　外部サポート人材や即戦力の確保として、IT 企業のみならず金融機関や税理士及び業界団体等によるサポート体制の強化と、海外人材やリタイアした技術者の活用促進

③　全ての企業を対象とはしつつも、やる気のある企業に対して手厚いサポートに繋がるような、インセンティブが享受できる DX 人材認証制度の創設

(4) その他の必要な取組

①　あらゆる分野での積極的なデータ利活用に向けて、行政をはじめ官民のオープンなデータ化を強力に促進する取組の検討

②　県の補助事業で取得したデータについては、県へデータを提供させるなど、可能な限りオープンデータ化の実施

③　沖縄をデータ活用の先進地とするため、データ利活用コンテスト等の開催

④　行政のデジタル化など行政 DX の推進により、企業の DX を誘発する環境の構築

⑤　各産業の DX を推進する役割を担うため、経済団体や中小企業を含めた各産業別団体等における産業 DX に向けた推進体制の構築や取組を促進するとともに、県の各担当部局と支援機関を含めた連携体制の構築

○　ファシリテータ（新谷）：

以上になりますけれども、この提言部分の文面については、年末に皆様方にお送りしたドラフトに対しまして、委員の皆様から頂いた意見を反映した形で本日の案にまとめております。変更した箇所ですが、こちら画面に赤い字で示しておりますけども、提言の（1）の②のところに「その設計図である計画書を作成し」、これを追加しております。また提言の（2）の③のところに「SaaS 利用等」という言葉を追加してございます。さらに（3）の①に「リスキリングプログラムの構築・実施」を付け加えております。さらに③で「DX 人材認証制度の創設」を付け加えています。また提言の（4）の②の文章、これ全体が新たに付け加えておりまして「県の補助事業で取得したデータについては、県へデータを提供させるなど、可能な限りオープンデータ化の実施」を付け加えております。また③の中の「データ利活用コンテスト等」の文面を付け加えております。

以上、いただいた意見を受けてそれぞれを全部追加した修正を行っております。その点をご確認いただきたいというふうに思っております。

さて、本文の最後ですが、「おわりに」に、総括的な事柄を述べつつ提言に書かれた取り組みが実施されれば、県経済に恩恵がもたらされることを指摘し、更なる将来においては県内のすべての産業に変革が訪れるということを指摘しております。そして県が提言を実行に移すこと、県が自ら模範となるべく DX に取り組むこと、これを要望し、提言として明記された事柄だけでなく会議で提言されたその他の意見等も参考に施策や取り組みを検討してほしいと述べて提言書を締めくくっております。

提言書案の説明は以上でございます。

3. 提言書案に対する委員の意見

○ 稲垣委員長：

どうもありがとうございました。私の見るところ、これまでの皆さんからのご意見、議論がかなり丁寧に反映されているのかなと。さらに細かいところまでバランスのいい表現にしていただいているような気がいたしました。皆さんからもいろいろなご指摘をすでにいただいているかもしれませんけれども、改めてこの提言書案についてご意見をいただきたいと思います。これでいいという意見も含めて、仲地委員から一言ずつご発言いただければと思っております。

○ 仲地委員：

この資料は事前に拝読させていただきましたけれども、私としては非常によくまとめられていると思っています。

特に行政 DX、P8 ですか、ここの「行政自身の DX が進むことが強いインセンティブになる」、「県庁が率先して働き方改革を行い」という、さらにこの DX とか働き方改革を行う、これはよく一緒に捉えられる場合もあるんですけれども、全く別なところもありますので、それを県が示すということは非常にまた意義があると思っています。これはやはり一番重要ではないか、と思ってこの資料を拝読しました。あと民間企業でもやる気のある所をまずどうしていくかというところもしっかり落とし込まれている、というところで、そのような企業をどんどん底上げしていくと、当然 DX に取り組まないという企業もたくさんあると思いますが、まずはやはりやる気のある企業からどんどん底上げをしていき、取り組みが遅れるところは自ら気が付いて、これは来年でも再来年でもいいと思うので、そこにしっかり DX の取組み環境を醸成していくというのが一番大事なのかなと思いました。これで非常にいいと思います。

○　稲垣委員長：

　ありがとうございました。続いて小渡委員お願いします。

○　小渡委員：

　ありがとうございます。提言の取りまとめ、お疲れ様でございます。私も、これまでの議論の内容がしっかりと盛り込まれており、また細かいコメントなどに関しても反映されているのかなというふうに理解をしております。

　1 点確認なのですけど P9 の（3）の③の「DX 人材認証制度」というのは、これは沖縄県として認証制度を整えていくという話になってくるのですか。

○　稲垣委員長：

　これは事務局の方から。

○　事務局（東盛副参事）：

　委員の意見の中からそういったものがありましたので、こちらにちょっと組み込んでみたところです。県として、こういうものを作ってはいかがかというご意見がありました、ということです。

○　稲垣委員長：まずそのレベルの話ということですね。

○　小渡委員：

　僕も全般的によろしいのかなと思っています。これはあとどういう形で実際の政策に落とし込まれていくかというところの方が気になるところでございます。

○　稲垣委員長：ありがとうございました。次、古宮委員お願いします。

○　古宮委員：

　私も事前に読ませていただいて、コメントしたことが全部反映されているのを確認させていただきましたので、方向性としてはこれでいいと思います。さっきの Ｐ９ の（3）の③ですがここだけちょっと日本語が変だと思うんですが、

○　稲垣委員長：

　どこですか。P9 の。

○　古宮委員：

　P9 です。P9 の（3）の③です。「すべての企業対象」というのは県庁の立場としてや

って、「やる気のある企業に対して手厚いサポート」というのはわかりますが、それと「インセンティブが享受できる DX 人材認証制度」というのが繋がってないような気がします。ここでの議論は人材認定制度をやって、そういう人材を育てるということを多分言っていたと思います。それとこの手厚いサポートをするというのはちょっと合わないような気がするのでここだけちょっと変更していただいて、一つは人材認証制度っていうのを設けたらどうか、というのが一つあると思うので、それと手厚いサポートに繋がるようなインセンティブは別にあるような気がしています。ですので分けていただいた方がいいと思っています。それ以外は大体思っていた通りになっていました。本当におっしゃるように、これがどんな施策になるのか、考えながら進めていきたいと思います。

○　稲垣委員長：

　ありがとうございました。ただいまご指摘の点につきましては日本語の問題ということで、この後、事務局あるいは委員長にお任せいただいて、ご趣旨の方向で修正できればと思います。

　続いて細川委員、お願いします。

○　細川委員：

　修正点、お願いしたところは修正いただいているので間違いございません。

　先ほどの行政 DX、P8 のところですが、また県が率先して働き方改革を行うというところは自らへの戒めというか、自らへの課題だと思って、前向きに取り組みたいと思います。それ以外は特にございません。

○　稲垣委員長：

　ありがとうございました。では東委員お願いします。

○　東委員：

　これまでのいろんな皆さんの自由活発な意見をどう取りまとめるのかだろうというふうに思っていたら、このようにすごくきれいにまとまってきたのは本当に素晴らしいと思います。

　私は細かいことですけど、P2 の上の方の図 1 は字が読めないと思うので、これは提言書を作るにあたっては、ちゃんと読めるようなものにしていただいた方がいいと思います。この図は 2 つともですね。

　それから先ほど事務局が読み上げた部分でいうと、P8 の下から 4 行目で「工夫等を紹介する産業 DX」ですから、ここの「紹介する」と「産業 DX」の間の点はいらないのではないでしょうか。

○　稲垣委員長：

ちょっと確認させてください。

○　東委員：

P8の下から4行目で、紹介する「、」と打つと、イメージとして、「紹介する産業」ですよね。だからそこかと思いました。

それとP9も先ほど言っていたDX人材認証制度がまだ決まっていないのだったら「等」入れてもいいのではないかというふうに思いました。

それで私は一番最初の話に戻りますが、どうしても委員会が「稼ぐ力の強化」ということをやってるので、この文章ではいいのですが、それをどう表彰や奨励をしていくのかというのが、やはり次の段階で必要じゃないかというふうに思っています。ですから、観光でもそうですが、やっぱりITも観光も、いわゆる企業としては中小企業とかが多かったりすると思いますが、やはり外貨を稼いでいる企業が多いと思います。そういうところを表彰するというのはとても重要で、ここは関係者もいるかもしれませんし、いないかもしれませんが、小売業とかどんなに企業が潤ったとしても県民の財布を狙っているわけです。外から物を持ってきて県民に売っていわゆる利益を上げる、というものと、やっぱりメイドイン沖縄、または沖縄の観光資源を外の方々から稼ぐための経営を資源としてるというところはとても重要だと思うので、ここでは特に問題はないと思いますが、次の施策にする時に稼ぐ力というのはまた続いていくのかなというふうに思っています。

○　稲垣委員長：

ありがとうございます。ご意見はしっかり記録に残して、ここから先の展開と、あとは表現上のご指摘についてはもう一度検討させていただいて改良できるところはさせていただきたいと思います。ありがとうございます。宮城委員、お願いします。

○　宮城委員：

私もご提案したことはほぼまとめられているので、本当にお疲れ様でした。2点、確認したいと思います。1点は修正で、表現の確認をしたいです。

P9の（4）①「あらゆる分野での積極的なデータ利活用に向けて、行政をはじめ官民のオープンなデータ化」とありますけれども、「行政をはじめ官民のデータのオープン化」ではないかと、思います。こちら、ご確認お願いします。

P8の一番上の行ですが、「沖縄らしい行政DXとして沖縄の持つユニークなデータの提供サービスも検討できるのではないか」とあるのですが、確かにここでそういう話もしたような記憶はありますけれども、この文章が何を言っているのかというのはよ

くわからないと思います。「沖縄らしいユニークなデータ」とは何なのか、こちらをもう少し踏み込んだ表現が必要ではないかと思います。

それと同じページの③「官民連携体制」、ここで官民の「トップのリーダーシップが欠かせない」ということと、「官民が連携して強力に推進し加速していかなければならない」と書いているのですが、確かにそうなのですが、なぜそうなのかということをここでは書かないといけないのではないか、と思います。ですので、そのような表現ももう少し入れた方がいいのではないかと思います。

○　稲垣委員長：

ありがとうございました。3点ご指摘いただいて、本文中の簡単な改良が可能なところは改良すればいいと思いますし、話が少し長くなりそうなところは脚注で例示をするとか、方法についてはお任せいただくとして、以上の 3 点の改良をできる限りしたいと思います。ありがとうございました。

仲間委員お願いします。

○　仲間委員：

私もこちらでいろいろ述べさせていただいたことが大体反映いただいているので、ありがとうございました。

1点、P9の（4）のデータ化、データの利活用とかいうところでデータのオープン化などがありますが、もう一歩踏み込んで、本当はこのデータをオープンにしたらそれでいいのか、というとそうではなくて、行政によくあるのが、例えばＰＤＦで公開したらもうオープンデータですよ、というケースです。それをまたExcelに打ち直したり、それも膨大なデータを打ち直すかというと使えるものではないというのが本質のところだったりしますので、そこを使えるデータのオープン化というところが重要だと思うので、そこを少し盛り込む、ま、確かに議論の中でもその話、例えば国の方でRESASのような、ちゃんと可視化されたようなもので、ちゃんと使えるツールを構築するというところがポイントになると思いますので、可能であれば、そこを少し加えることを検討いただきたいです。

もう 1 点が、全体的に DX というところがキーワードで入っているのですが、ポイントポイントで見るとどちらかというとIT化に近い形にやはり見えてしまうので、これを提言した先に、まずはIT化というところが前提であって、その先にこのDXを見据えた提言書だったらとてもいいと思いました。本当に稼ぐ力の意味での DX 化と捉えると、少しIT化寄りに全体が見えてしまうので、これでDX推進できますよと捉えられないかだけが少し気になりました。

○　稲垣委員長：

ありがとうございます。2 点ご指摘いただいた 1 点目は、例えば「再利用の容易な形式での」というような文言をどっかに入れることによって解消できると思いますが、2 つ目はちょっとここで DX は何を含んでいるかとかどっちを向かっているかとか、全体の構造ともう一回確認するような話になってしまうからどうしたらいいかなと思って伺ってたのですが、ご主旨は良くわかりますので、「DX が単なるデジタル化にとどまらず」みたいな短い言葉をどこかに入れてうまく表現できるものならぜひ入れたいなと思いました。

○　仲間委員：

「おわりに」とかでもいいのかもしれないですけれども。おわりの最後の方で文章が少しあるといいかもしれません。

○　稲垣委員長：

ということで進めさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

最後は上間副委員長でございます。

○　上間委員：

全体提言としては事前に確認もあったので、これ以上特に細かい表現に関してもご指摘はいくつか出ているので、問題ないかと思いますが、これは事業としてとりあえず提言をするのが目的でよろしかったですか。だとすると「はじめに」のところ、もしくは 1 と 2 の間、1 でもいいんですが、目的をちゃんと書いた方が良いのではないでしょうか。何のためにやっているのかということを、プロジェクトとしてゴールがしっかり明示されているというは大事かと思います。

○　稲垣委員長：

「はじめに」のところですね。

○　上間委員：

僕だったら「はじめに」以上に目的の方が大事だと思うので、説明はその目的に対して前提が始まるので、目的をきちんと明記した方がいいと思います。あと気になったのは、今回は提言でプロジェクトは完了ですか。その後の実行施策の詳細や、それが定量化されて何を達成すればゴール、つまり成功したのかという評価が今の状態だと多分できないので、まあ何やっても正解なんですよね。そのあたりはどうしますか。

○　稲垣委員長：

提言を行う委員会だから、まずはそこまでで提言して、そのあと県がどういうふうに

動くかということについてはまた別の委員会になるのか、別の構造で評価されるということじゃないでしょうか。

○　上間委員：

じゃぁ今回は提言がゴールということにしましょう。それでしたら特に問題ないですね。ただ最後は全体的な忠言というか、次の展開に関してのご提案があって、今いくつか仲間さんの回答に対して議長の言っていた通り構造を見直す必要がある、という話ですが、そうなんですよ、もう少し構造をしっかり再確認するところから次はやらないと、初めに産業 DX ありきで話がゴリゴリ行くというのは、手段への執着にしか僕は見えませんでした。それこそ本気でその変化を起こすって言うのであれば、定量化必須ですよね。成果に対してもっとコミットをしないと、これだと頑張りましょう、エイエイオーで終わりなんです。別にやってることに意味がないわけじゃないのですが、方針は出てるのである程度分かるのですが、ただ指示が曖昧模糊としているので、各プレーヤーが各々勝手に正解を想像したり、各々の動きになって、プロジェクトの評価のしようがないという状態が放置され続けるので、次回以降はその構造をもっとタイトにやらないといけないと感じています。

○　稲垣委員長：

ありがとうございました。大きく 2 つお話があったと思います。

1 つ目の目的を明示するという意味では、この提言書のタイトルがまず「稼ぐ力の強化に向けた」と書いてあるので、稼ぐ力を強化するという目的だということはここで少しわかるんですけども、それが本文中で繰り返されてもいいし、あるいは昨年度の万国津梁会議の提言を引用してもいいし、何らかの形でなぜ稼ぐ力をここで問題にしているのか、そのために DX が重要だということは誰がいつどう決めたのか、っていうようなことが少しわかるような加筆なのか脚注なのか、この辺の可能性をちょっと調べたいと思います。

○　上間委員：

シンプルに、見出しの中に「この会議の目的」とか「提言の目的」の表記があればいいかと。

○　稲垣委員長：

そうですね。それから 2 つ目は評価の仕方なんですけども、確かに新沖縄 21 世紀県ビジョン基本計画とか、あるいは分野別計画は、最近どう評価するかっていうのが最後のページにかかれていて、これも同じように最後に評価について一言触れるべきなのか、あるいは上位計画の中にそれがすでにあるので、その一部という意味ではもうすで

に語られたということで済ますのか。

○　上間委員：

その引用はあってもいいかもしれませんね。

○　稲垣委員長：

その辺は行政的に形式というのがあるでしょうから、ちょっと検討させていただいて、それにするという形でいかがでしょう。

○　上間委員：

あくまで僕からの提案ですので。

○　稲垣委員長：

ありがとうございました。他に言い忘れたことのある人はいませんか。

○　細川委員：

1 個だけいいですか。

中心の話じゃないから流したのですが、P7 の④、外部のプロをパートタイムで雇い入れるという、表現があまりよろしくないと思っています。パートタイムでもいいのですが、シェアの時代と言われているので、「シェアリングサービス」のように、何かシェアっぽい言い方も加えた方がいい気がするのですが。この会議の中ではパートタイム的な表現だったのでそのまま書かれているのかと思いますが。

○　稲垣委員長：

それも再確認して最終的に決めさせていただきたいと思います。

私からは特に付け加えることはありませんが、大変些末なことで恐縮ですが、先ほどの説明を聞いて、新しく気が付いたのは、2 の（4)、「その他、検討すべき取組」のところで話の順番が行政 DX、官民連携、データ利活用の順番になっているんですよ。これが、その後の 3 の（4）のところでは順番がひっくり返っていまして、これどっちかに揃えた方がきれいだと思いました。

私からは以上でございます。

概ね 97%くらいＯＫをいただいて残り 3%くらいもう一つ検討を加えて欲しいというご意見がいくつもありましたけれども、対応、方針についてはその都度申し上げたような形で、そう大きな意味的な変化は生じないというふうに思いますので、本日のご意見を含めて、最終版を事務局中心に取りまとめてもらいたいと思うんですけれども、今いただいたご意見についてはどうなったかっていうのは事務局方から私、逐一報告受

けまして、今日が最終の委員会ということでございますので、委員長である私にご一任いただけると大変ありがたいと思うんですけれども、よろしゅうございましょうか。

（異議なし）

ありがとうございます。それでは私の責任において今日の最後のご意見についてもきちんと答えができるようにチェックをしたいと思います。それではこれで議論はすべて終結したものといたします。

これまで 4 回の会議で本当に沖縄の未来にとって重要な提言になろうかと思いますが、その中でも特に本質的な部分について、皆さんにご意見を頂戴して、それが事務局の努力もありましたが、一つの提言として、そこそこうまくまとめられたことについてはほんとによかったなと、改めて皆様のご助力に感謝を申し上げます。ここまでで委員長としての私の、今日の会の運営という意味では終わらせていただいて進行を事務局に戻したいと思います。よろしくお願いいたします。

4. 閉会

○　事務局（下地班長）：

稲垣委員長、ありがとうございました。それでは本日最後の会議でございますので、県の方から産業振興課長の大嶺より一言ご挨拶を申し上げさせていただきます。よろしくお願いします。

○　大嶺課長：

皆さんお疲れ様でございました。産業振興課の大嶺です。よろしくお願いします。

本日で今回の会議が最後ということで、集まるのが最後で、最終的にいろいろまとめていただけるというところがございますが、一言これまでいろいろありがたい意見をいただきましたことに感謝を申し上げたいと思います。委員の皆様取りあえず最初に委員をお願いしたところ、私の中では快く受けていただいたと認識しています。どうもありがとうございました。この万国津梁会議の中では、大体 5 か月くらいで 4 回、物足りない方もいらっしゃったと思いますけども、開催させていただいて、お忙しい中、貴重なご意見いただきました。

ちょうど県としましては新しい計画ができまして、稼ぐ力とかいうのを強化していきたいというところで、産業 DX というキーワードが出てきたんですけども、それと並行しながら、コロナで県の経済も弱っているというところもありますので、そういった経済も DX で、V 字回復とまではいかないにせよ、いろいろ回復させていきたいという思いもあって、いろいろ普及・啓発とか、人材育成、そういった課題を設定させていただいて、いろいろ解決していこうというような環境整備に取り組んできたんですけれども、やっぱり県が考えているものだけがいいのかっていうのはもちろん自信がなくて、そういった中でこの万国津梁会議みたいなところで、民間の皆様の、有識者の皆様のご意見も聞きたいというふうなところで、今回、このような場を設定させていただいているところです。

この会議においていろいろ課題も洗い出していただきました。当然県が考えているのと同じ方向もありますし、また県が発想もしていなかったようないろいろなご意見もいただいております。そういったものも、いろいろな現場の方々の意見も含めて頂戴していますので、有意義な内容だったのかなあというふうに感じております。

今後はこれを提言という形でまとめて、知事の方に手交するということになります。先ほど上間委員からもありましたけれども、提言て結構重たいんですね。一応その有識者の皆様、あるいは業界の皆様というところから頂いた提言を直接知事に手渡しますので、知事として受けたらこれは行政としてぜひ反映させていくというふうな方向になっていきます。ここだけの話になるかもしれませんけども、私たちの課もそういうふ

うな提言を根拠に予算をどんどん取っていきたいなと。それでこの産業 DX に向けて加速していければなというふうなところで、応援部隊としての提言だと受けておりますので、ぜひこれを実現に向けて取り組んでいきたいというふうなところです。KPI については今後いろいろ政策を展開していく中で設定しながら、うまく回していけたらなと思っていますので、やっぱり実行していくことが重要というふうなところは認識しておりますので、関係部局と連携させていただきながら、しっかりと取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続きまた皆様の方も県がちゃんとやっているかどうかっていうのはチェックしていただきながら、何なりと意見なりあればぜひ承りたいと思いますので、この辺は引き続きお力添えいただきたいと思っています。本当に本日はありがとうございます。

○　大嶺課長：

ちょっと宣伝だけ。今年度、手許にお配りしているパンフレットの中で、一応裏表があるんですけれど、赤い字で書いてある DX 人材養成講座というのがあります。本年度からこの DX 人材養成講座ということを開催しておりまして、ここに参加されているのはユーザー企業の方たちが DX を推進していく中で、いろいろ困っているというふうなところがありますので、そのユーザー企業の DX の人材を育てていこうという講座をメインにいろいろやっています。

そこで各事業者たちが自分たちの課題を持ち寄って、そのハンズオン支援を受けながらいろいろ実践していくというふうなところになっていって、最終的な成果を報告していただけるような場になっております。それがどういうふうな取り組みがあったのかというのを発表させていただくと同時に、ユーザー企業側の悩みっていうのもいろいろ出てきますので、これを IT 企業側の方たちにも参加していただいて、これを聞いていただきながら、お互い意見が合えばというか、マッチングしていきたい、事業課題に向けたマッチングができればなというふうなところも考えていますので、こういうふうなフェアも考えているというふうなところも、皆さんに宣伝させていただきながらもし興味がおありでしたら、ここにぜひ参加していただきたいなと思っていますのでよろしくお願いします。簡単ではありますが以上です。

○　古宮委員：

ちょっと補足するとこれ会議で申し上げていた DX 教育というのがまさにこれにあたります。先週の金曜日で最終回、終わってそれの報告、発表する場になりますのでぜひ経営者の方にも来ていただこうということで、県内の経営者の方にもレターを送る準備をしていたりします。皆さんもぜひ来ていただけると嬉しいです。私もしゃべることになっているのでよろしくお願いします。

○　事務局（下地班長）：

ありがとうございます。先ほど委員長からもありまし通り、委員長にご一任いただきました提言書案の修正につきましては修正後の物を各委員へメールにて送付させていただきますので、よろしくお願いいたします。また、3月中旬頃に、委員長及び副委員長から、県知事へ提言書を手交ということを予定しております。

委員長が今席を外されておりますが、それでは、委員の皆様、長時間にわたりご議論いただき、誠にありがとうございました。これを持ちまして、稼ぐ力の強化に向けた産業DXの加速に関する万国津梁会議を終了とさせていただきます。

本日は大変お疲れ様でした。誠にありがとうございました。